



Lily's Market

花を通じて感じる人と人との繋がり 「日本人のDNAに刻まれたユリ」

競り人と生産者との関係は密接で、私は産地に行って直接話を聞きます。時にはお客様からのクレームを伝え、次の出荷で改善されていると信用につながるのです。

2018年1月、私は沖永良部島ヘテッポウユリのヒノモトという品種の視察に行きました。そこで見たのは、広大な土地に埋えた無数の球根を、一つ一つ丁寧に見て回る生産者の姿でした。「ここまで真剣に向き合っているんだ！」とその熱意に打たれ、私自身もプライドを持って売れるようになりました。日本原産のテッポウユリは、日本人のDNAに刻まれているのかもしれません。

生産者の想いが詰まったユリを、もっと多くの人に！テッポウユリといえば葬儀やお寺で飾る和のイメージですが、若い人たちに洋花的に使ってもらおうと、数年前の展示ではテッポウユリで結婚式のブーケを作ってもらいました。これは好評を博しました。

市場で触れる機会が多いからこそ、私たち競り人が若い人と花との距離を縮める取り組みをしていかなければと思っています。

取材協力：(株)第一花き 由本 晃敏さん



Lily's Seasons



「ホームユースが需要開拓の鍵 日本原産のテッポウユリを残す」

テッポウユリは日本原産であり、一から自分たちで作っている特別なものです。2020年には、農林水産省により「えらぶゆり」が地理的表示保護制度GI^{*1}に、観賞用植物として全国で初めて登録されました。日本のテッポウユリを残していくのも、私たち生産者の務めです。

ユリの新品種は何十、何百とできて、残るのは1%以下。テッポウユリの新品種も毎年5、6品種生まれています。コロナ禍により家で過ごす人が増えているので、小輪の「プチホルン」の生産や、無花粉のテッポウユリの試験も開始。また、家庭でカットする必要がなくホームユースに適しているスマートフラワー^{*2}も推進しています。

若い世代の人が、家に花を飾ってみようと思える環境を整えて、家庭にいつも花が飾られる未来を実現させたいですね。



取材協力：沖永良部花き専門農業協同組合 東農園 東 寿光さん

^{*1} 地理的表示保護制度GIとは、地域で長年育まれた特別な生産方法により、高い品質や評価を獲得している農林水産・食品の名称を、品質基準とともに国に登録し知的財産として保護するもの。今後GI登録産品として差別化されることで認知度が高まり、地域生産意欲と国内外でのブランドの向上が期待されます。
^{*2} スマートフラワーは、国際的な取り組みであるSDGsに準じて、廃棄ロスを抑え環境負荷が少ない加工用途切り花です。



Lily's Life

ご縁の仲立ち 「ユリとお客様の一期一会」

お客様とお花との出会いも、私たちとお客様との出会いも一期一会です。その貴重な機会を最高のものにするための鍵は、お客様とのコミュニケーション。当店ではお客様とお話する際には「ゆりこと」を活用していて、ユリの魅力を伝えるのに役立っています。

お客様とユリとのエピソードはたくさんあります。奥様の月命日には必ず生前好きだったユリを贈る旦那様や、ユリが満開の時期に産まれた娘さんに百合子と名付け、娘さんが事故で亡くなってからは命日にユリを飾っているお母様。

また、日本語の上手な台湾の方が「プロポーズしたいんですけど」と突然訪ねて来て、花束の真ん中に入れてほしい、とティファニーの指輪を私に預けて行かれたこともあります。ユリ満載の花束を作ってお渡しし、後日パートナーと一緒に来店して「奥さんです」と紹介してくれました。

生産者の方の情熱があってユリが育ち、お客様一人ひとりの想いと結びついて人生を彩る。私たち花屋は、その縁の仲立ちをしているのです。

取材協力：(株)ブルーミスト オランダ屋 大森 智保さん

